

パーキンソン病のサラリーマンが初めて出会った本当の自分

# いま ダンス をするのは誰だ？

## 生きるとはダンスだ！

パーキンソン病をテーマにした劇場公開用映画

プロデューサー：松野 幹孝、古新 舜、小川 順也 他調整中  
医療監修：師尾 郁 法務：西浦 善彦  
ダンス監修：相沢 香 PDダンス監修：マニシア  
協力：PD就労促進プロジェクト実行委員会  
(松野 幹孝、芦名 洋二郎、杉本 勉、古本 幸、小川 順也)

### 代表応援者

服部 信孝(順天堂大学医学部附属順天堂医院脳神経内科 教授)  
師尾 郁(美浜神経内科院長)  
岩田 正晴(株式会社 ウチダシステムズ 代表取締役社長)  
武藤 佳史(株式会社 多間 代表取締役)  
吉藤 オリィ(オリィ研究所所長 デジタルハリウッド大学大学院 特任教授)

### ご協賛・後援団体

株式会社 **ウチダシステムズ**



**美浜神経内科**



**陰陽五行論塾**

produced by (株)多間

Smile Space PD Cafe

全国パーキンソン病友の会

順天堂大学附属順天堂医院脳神経内科

### 監督・脚本・原作 古新 舜 (こにいしゅん)

映画監督・ストーリーエディター。「Give Life to Your Story!—物語を動かそう!—」をテーマに、映画と教育の融合を通じて、大人と子どもの自己受容感を引き出していく共育活動を行なっている。

米国アカデミー賞公認映画祭ショートショートフィルムフェスティバル2年連続入選、山形国際ムービーフェスティバル「部門最高賞」「船越英一郎賞」W受賞、長岡インディーズムービーコンペティション「グランプリ」受賞など、過去の作品でのべ40以上の映画祭で受賞・ノミネートを果たしている。

最新作となる長編映画「あまのがわ」は、不登校の女子高生が分身ロボット“OriHime”と共に、屋久島・鹿児島を旅する物語。2019年、第31回東京国際映画祭「特別招待作品」として選定され、ロサンゼルスJFFLAにて「最優秀脚本賞」を受賞。2021年には是枝監督「万引き家族」と並んでベトナムの日本映画祭に日本代表として選ばれる。

### 共同脚本 野間 美智子 (のま みちこ)

脚本家・小説家。幼少の頃から、マンガや小説を書き始め、2004年にアニメ脚本家としてデビュー。

『幻影ヲ駆ケル太陽』『とある科学の超電磁砲』『ログ・ホライズン』などの200本近くのアニメ脚本や、ノベライズ『食戟のソーマ』など数々の脚本を手がける。

2015年、『さくら×ドロップ』で第一回小学館ジュニア文庫小説賞・大賞を受賞。

「子どもたちにもものがたりを作る楽しみを知ってもらいたい」と思いから、「空飛ぶものがたり教室」を不定期で開催している。



製作：コスモボックス株式会社・PD就労促進プロジェクト実行委員会